

第22回 栗東市教育研究発表大会

令和7年2月13日(木)に「第22回栗東市教育研究発表大会」を栗東市総合福祉保健(なごやか)センターで開催しました。

開会行事では、主催者を代表して、今井義尚教育長から開会のあいさつがありました。教育長より、今年度の教育奨励事業において、多くの先生方からの教育実践が寄せられたことについて、各校園の保育教育に対する熱意や意欲への賞賛と激励がありました。そして、優秀賞と奨励賞の受賞者に賞状授与が行われました。



教育研究奨励論文発表

『新たな教師の学びの姿』に向けた教員の学び合う場のあり方
—共に学び合う校内研究を通して—

<発表者> 大宝西小学校 井上 宗晃 教諭

【参加者からの声】

- ・ 校内研究会だけの授業に終わらず、日常の授業公開に可能な範囲で参加することで、先生方の負担感を減らし主体性もうまれるので、よい取組だと思う。
- ・ 校内研究のありかたについての発表を聞いて良かった。教員が学びやすいような工夫をしていたことがわかった。働き方と研修のバランスが取られていて勉強になった。
- ・ 持続可能な研究授業のあり方について、新たな気づきができた。何を求められているのか、どのようにしたら参加したいと思える内容になるのか、柔軟に話すことが大切だと思った。
- ・ 子どもをしっかりみとり、職員間で情報共有し、対話を大事にすることや、「できない」ではなく、「できる」をみつけて小さなことからやっていくことが大事だと感じさせてもらった。
- ・ 実践されたことが、来年度本校でもやってみたいと考えていたことに近かったので、大変参考になった。緻密に研究推進されているなど、改めて小学校の先生方の意識の高さに、学ばせてもらうことがたくさんあった。



教育研究奨励論文講評

<講師> 滋賀大学教職大学院 准教授 北村 拓也 氏

教育研究奨励論文の書き方や審査に関わっていただいた北村准教授から、応募者全員への講評をしていただきました。研究テーマや研究の視点、実践の分析や評価等、たいへん丁寧な講評と温かいお言葉で研究論文の価値付けをしていただきました。今後の本市の保育・教育に生かせるよう努めてまいります。



実践報告

「市内小中学校における ICT ツールの活用の状況について」

<報告者> 学校教育課 課長補佐 森 聡

学習用端末の使用頻度や、今年度から導入された授業支援システム「MetaMoJi」の活用についての報告がありました。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業に関して、実際に ICT ツールを活用されている市内小学2年生・算数科の授業についての詳しい報告もありました。前向きに課題に取り組む様子や、児童同士の学び合いの様子が印象的でした。

教育講演会

「子どものチカラを引き出す教師力」

～レジリエンスの獲得を目指して～

—高校野球指導で学んだこと—

<講師> 栗東市教育委員会 教育長 今井 義尚

本市が進めている「栗東子育て教育 Next プロジェクト」に関わって、非認知能力の一つであるレジリエンスについてご講話いただきました。高校野球の指導者として経験されたことをもとに、「子どもとは、縦関係ではなく横関係で向き合う」「本物に触れさせる」など、子どもの力を引き出すために重要なことを教えていただきました。また、失敗や挫折の中でも、力を尽くすことの積み上げがレジリエンスを育むために大切であることも教えていただきました。



【参加者からの声】

- ・ 熱い気持ちや目標を持って、子どもと向き合っただけでこられた姿が心に響いた。1人の人として子どもと関わることが大切ということは、どの年齢においても通ずるものなのだと思います。
- ・ 物事を変えるときには必ずハレーションが起きる、という言葉が印象に残った。子どもの主体性を大切にしていくなかで、行事のあり方を見直しているが、職員同士や保護者とうまく思いが通じ合わないこともある。今井先生のように、人とのつながりを大事にしながら、「こうなりたい」という思いを強く持ち続けたいと思う。
- ・ 実体験を通じての話は、わかりやすく、人間力をつけていく大切さや、失敗や挫折があっても逆境に負けない心の強さを得られること、積み上がり人が成長していく素晴らしさを再確認させてもらった。子どもは自分を映す鏡という言葉大切に、自分を見つめ直していきたい。
- ・ 教育長の行動力が本当にすごいと思った。行動力が生徒たちに伝わり、チームを伸ばすことにつながっていると思った。動くことで選手だけでなく、周囲も変わる、色々なことが変わっていくと学んだ。人間力を高めるために自分も学んでいきたいと思った。
- ・ 教育長のお人柄が伝わる講演会だった。今までの教育研究大会の講演会では味わえない学びをさせていただいた。人間味あふれる話に、自分は人を育てる素晴らしい仕事をしている思いと、自分にもっと厳しく自分自身を高める努力をしていかなければならないと、あらためて感じた。
- ・ 教育長のこれまでの指導観がよく伝わりました。飾らずに実直なお話ぶりに、人間味を感じました。人材育成としてのコーチング、マネジメントについてもお聞きしたいと思いました。栗東で学んでよかった、仕事をしてよかった…と思えるような教育が展開できるよう、どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年度 調査研究の報告

自ら伸ばそうとする意識に重点を置いた非認知能力の育成 ～意識づけツールを活用した組織的・継続的な取組を通して～

栗東市立教育研究所 研究員 本郷 美緒

昨年度の研究結果から、非認知能力育成には、「自ら伸ばそうとする意識」「組織的・継続的な取組」が必要であることが明らかになりました。そこで、推進校として市内の小学校2校を設定し、研究構想図(図1)に示すように意識づけツールを活用し研究を進めました。

1. 成果と課題

研究終期に非認知能力育成推進校にて、質問紙調査を実施した結果、「非認知能力育成に役立つと思うもの」について一番多かった回答は「アイコン」(図2)でした。「アイコン」に関しては、すべての教職員が「教室や廊下に掲示している。」と回答し、「アイコンが、子どもたちへ浸透している。声掛けにも使っている。」「伸ばしたい非認知能力を児童自ら選ぶことができ、学習意欲も高まっている。」という感想も得られ、組織的・継続的なアイコンの活用が非認知能力を意識する手立てとして有効であったことがうかがえます。「授業でも『いけいけくりちゃん』や『いっしょにくりちゃん』を心掛け頑張ることができた。」「アイコンを使うようになって、すぐにあきらめることが減った。」など、児童の感想からも意識する手立てになっていたことがうかがえます。

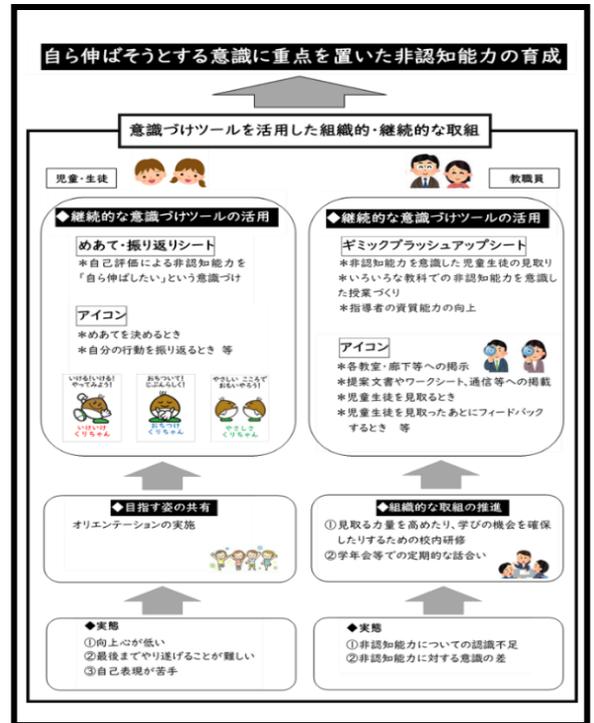


図1 研究構想図



図2 アイコン

「児童の非認知能力が育っていると感じる。」という教員の回答が約80%、また、「生活や学び方に変化があった(意欲的に取り組めるようになった、悩むことが減ったなど)」という児童の回答が約70%ありました。このことから、意識づけツールを活用した組織的・継続的な取組が、自ら伸ばそうとする意識につながり、非認知能力育成に有効であったと考えます。

一方で、振り返りの時期や方法、非認知能力を意識した授業づくりに関しては、各校の実態にあったシートを作成し活用するなど、さらなる改善が必要であると考えます。

2. 今後に向けて

意識づけツールを活用した組織的・継続的な取組が、非認知能力を「自ら伸ばそう」とする意識や非認知能力の育成に有効であることが明らかになりました。しかし、認知能力と非認知能力との関連性、つまり非認知能力と認知能力を一体的に育成できることに関しては、今後さらなる研究や実践が必要であると考えます。引き続き、非認知能力に関する理解を推進していくとともに、学校全体として同じ方向を向き、教職員が一丸となって非認知能力を育成することの重要性について伝え続けていきたいと思います。

最後になりますが、非認知能力育成推進校、研究協力校をはじめ、市内の先生方皆さまの熱心なご指導と温かいご支援に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

※調査研究報告書は、奨励論文集にまとめられ、SharePoint のドキュメントやデスクネットの文書管理でご覧いただけます。(3月下旬)

令和6年度 教育研究奨励論文審査結果

学校園名	種別	氏名	研究主題	賞
金勝こども園	共同研究	寺村泰典	一人一人の子どもを大切にする保育とは ～「対話」語り合いから多面的な見方・捉え方を培う～	奨励賞
大宝西保育園	共同研究	高橋 舞 秋田美幸	心動かし いきいきと遊ぶ 大西っ子を目指して ～自己肯定感を高め、人とつながる保育の在り方を探る～	優秀賞
金勝小学校	個人	宮平大空	主体的・協働的な学びの実現に向けた授業改善 ～体育授業におけるグループ活動を通して～	奨励賞
葉山小学校	個人	杉本日和	「できた」・「わかった」・「やってみたい」で 子どもの自尊感情を高める体育授業 ～流れ星ゲームの実践を通して～	奨励賞
葉山東小学校	個人	木村昂佑	国語科における授業のユニバーサルデザイン ～「分かる・できる」全員参加をめざして～	奨励賞
治田小学校	個人	市原愛季	自他を大切にし、違いを認め合う人間関係作りを目指す 小学校の特別活動 ～構成的グループ・エンカウターの実践を通して～	奨励賞
治田小学校	個人	奥野仁喬	互いを認め、尊重し合う学級づくり ～つながり合い、自尊感情を高める実践を通して～	奨励賞
大宝小学校	個人	原 小雪	誰もが学びに向かう環境づくり ～児童の姿を鏡にして自分に問い続ける教員を目指して～	奨励賞
大宝東小学校	共同研究	森 紀人 <small>(だいひが スマート委員会)</small>	「だ・い・ひ・が」な学校をめざして ～だいひがスマート委員会の挑戦～	優秀賞
大宝西小学校	共同研究	井上宗晃 <small>(まなびづくり部)</small>	「新たな教師の学びの姿」に向けた教員の 学び合う場のあり方 ～共に学び合う校内研究を通して～	優秀賞
栗東中学校	個人	土方 滋	ICTを活用した「主体的で深い学び」を実現する 教材づくり ～数学科の問題作成活動を通して～	奨励賞
葉山中学校	個人	橋本啓史	非認知能力の育成を目指した学級づくり ～学級目標を基盤とした学級経営～	奨励賞

来年度に向けて

教育研究奨励論文に応募されたこと、研修講座や研究大会に参加されたこと等、どれもが保育士・教職員としての資質向上につながることであります。日々忙しい中での執筆であったと思いますが、研修・研究に取り組みされたことが、きっと皆さまのこれからの保育・教育活動にいかされると願っています。

来年度も、皆さんのニーズにお応えし、少しでも日々の保育・教育活動にいかしていただけるような内容で企画・運営をしていきます。引き続き、ご理解・ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

来年度も
よろしくね!



栗東市立教育研究所 〒520-3088 栗東市安養寺一丁目 13-33 栗東市教育委員会事務局内
TEL 077-551-0130 ・ FAX 077-551-0149 E-mail kenkyusho@city.ritto.lg.jp